

八潮の景観を考える

～景観資源等の調査から～

市では、本市の景観形成の特性などを把握するため「景観資源等の調査」を行いました。この調査により、市内にもまだ貴重な景観資源となる建築物などが残っていることが分かりました。調査結果は、今後の景観まちづくりの指針となる「景観まちづくり計画」に反映いたします。今後も市民の皆さんから、貴重な景観資源の情報をお待ちしています。



市内には、このような貴重な建築物が、まだ残っています。
(大正時代に築造された蔵)

景観構造の考え方

景観は、周辺の河川や植生、地域の文化財などの「自然や歴史などの風景」、水路や道路、公共施設などの「公共空間の風景」、そして生活空間である「街の風景」が重なりあって一つの全体の景観を創り出しています。

このことでわかるように、景観は様々な要因が重なり合って創り出されるものであり、すべての人の共通目標を定め、守るべきものは守り(自然や歴史などの風景)、それらと調和したものを創り(公共空間の風景)、そしてみんなで育てていく(街の風景)が必要です。

自然・歴史の景観



二丁目付近の中川河川敷



自然堤防上の畑

八潮市は、市域の大半が中川や綾瀬川などの河川に囲まれ、市域境界のほとんどが河川の流路や過去の流路によって形成されています。

また、自然堤防上の集落形成や、後背湿地周辺の水田地帯の形成、地域に継承保存されている祭りや獅子舞などの歴史的な風景など、市内の各所で川にはぐまれた特徴的な景観をみることができます。

公共空間の景観



八条公園付近の八条用水



八潮駅舎

八潮市には、葛西用水・八条用水を始めとする農業用水が古くから整備され、現在でも市内各所に残されており、ここでも水系の影響をみるすることができます。

一方で、つくばエクスプレスの開業に向けて、八潮駅周辺では新たな市の顔となる公共施設の整備が進んでいます。

街の景観



けやき通りの商店街



民家の敷地に建つ蔵

八潮市の街並みをみると、市中央部付近を中心に住宅地や商店街が形成され、市民まつりを始めとするイベントが行われるなど、市民生活の中核となっていることが分かります。

また、古い民家など八潮市の地域性が残る貴重な建築物などが残っている所もあります。

八潮の景観の変遷

原風景

中川水系にはぐまれた歴史の営み

- ▼ 伝統産業などの背景にも河川や水路など水が深く関わっています。



葛西用水
(昭和31年ごろ)

景観の変貌

巨大都市・東京の影響

- ▼ 高度経済成長期に、東京の都市化の影響を主とした外部要因により、八潮の街が形成されました。



草加・八潮工業団地
(昭和50年ごろ)

景観の現状

混在による曖昧性

自然・歴史的景観と都市的景観が混在し、特長のない景観となっています。



市南部地域
(平成16年)

「八潮市みんなで景観まちづくり条例」に基づく市民団体を認定!

景観まちづくりは、市民の皆さんが主体となり、身近な部分から進めることが重要であることから、市民団体を認定します。

○市民団体の認定要件

- ① 構成員の過半数が市民であること
- ② 団体の活動が景観まちづくりを推進するために有効であること
- ③ 営利活動、政治活動、宗教活動が含まれていないこと
- ④ 団体の名称、設立目的、活動の内容および事務所の所在地が規定されている団体規約が定められていること

○認定市民団体ができること等

景観まちづくりに関する構想(計画)を提案できます。

○認定の方法

認定申請書に必要事項を記入のうえ、窓口へ

※申請書は都市デザイン課に設置